

# 🎈 4年ぶりの杜の子まつり in 仙台

NPO 法人せんだい杜の子ども劇場 事務局  
鈴木 舞

こんにちは。せん杜事務局におります鈴木です。巻頭文で杜の子まつりについて書くとは想像もしていませんでしたが、思えばせん杜との出会いも2017年の杜の子まつり in 石巻であり、不思議なめぐり合わせを感じます。

前回の杜の子まつり in 仙台は2019年2月24日。新型コロナウイルス感染症流行で中止となりましたが、それでも当日130名の親子が会場へ足を運びました。事務所で会場対応の様子を聞いたとき、中止にも拘らず、なおそれだけの家族が楽しみに来てくれていたのだと、継続してきた「杜の子まつり」の厚みを感じたのを覚えています。

コロナ禍が続く中で「開催しないのですか。」とお問合せいただくこともあり休止期間は長かったです。4年振りの「杜の子まつり in 仙台」は500名超の親子に参加いただき、会場を親子が行き来する様子を見るにつけ杜の子まつりが帰ってきた！と嬉しさが溢れました。

劇団含め59名のスタッフが参加親子のために力を合わせた一日でしたが、そのうちの18名は中高生のジュニアリーダーでした。

はじける笑顔とあそびで親子を迎えてくれた仙台市内ジュニアリーダーは、「遊びの広場」でどんなあそびをするか、という企画から準備・運営までを自らの力で担ってくれました。開始時間が近

づき今かいまかと扉を見つめる子どもの眼差しと、その後の賑わい。そして手には思い思いのバルーンを持ってうきうきと出てくる子どもたちの笑顔と大きな歩幅に、ジュニアリーダーの力を感じると共に「子どもは子どもの中で育つ」を実感しました。

劇団仙台小劇場「DANDAN おんだんか」では、はじまりのアナウンスと共に、司会から「杜の子まつりを知っている人はいますか」との問いかけがありました。私は会場後ろで見ていたのですが89名の親子の手が上がる様子はなく、子どもと子育て世代にとっての4年間の長さを痛感する思いでした。しかし、劇が始まると集中して心全体で見つめ、時に笑い驚く姿には変わらないものを感じます。人形劇「ピーターパン」でもそれ以上のうねりでたいらじょう氏の演技力に子どもたちが反応し、笑い、驚き、歓声を上げて応援しました。子どもたちの本物を感じる感性には驚かされます。

異年齢交流やファミリー芸術鑑賞、子どもが主役の「子育て」の場。4年越しの「杜の子まつり in 仙台」は、最後の親子が帰路につく後ろ姿を見届け無事に終了しました。

次は9月の「杜の子まつり in 石巻」に向け、満足そうな足取りで帰路につく親子の背中を見送るために準備を進めます。

## 最近の杜の子まつりのチラシ

